## 障害者も一緒「ユニバーサルソーラン」

# 学生ら 来月パリ公演

### 江別出身 守屋代表

## 「道産子の心伝える」

障害の有無や国籍を超えたよさこいソーラン踊り「ユニバーサルソーラン」を提唱する道内出身者を含む、筑波大生ら9人が11月にパリで公演する。同大学院生で代表の守屋俊甫（しゅんすけ）さん(23)＝江別市出身、茨城県つくば市＝は「パリ市民と一緒に踊り、笑顔を広げたい」と意気盛んだ。

渡仏するのは、守屋さんが同大北海道民会の学生を誘って昨年設立した「斬桐舞（ざんどうまい）」。会員約50人で、うち障害者は7人。全員に同じ動作は強いない。足が不自由な人は手だけで踊り、耳が聞こえない人は仲間の手拍子を見てリズムをつかんで舞う。各自できる範囲で踊るのが特長だ。

7月に茨城県で開かれた国際交流行事で各国の高校生たちと踊り、スペイン人から「フラメンコと違う情熱を感じる」と称賛された。

渡仏は在日フランス大使館が後援する日仏交流行事「サムライ・ジャポン」（11月7、8日、パリなど）の実行委の招きで実現した。「人との垣根を取り払う理念と、イベントの趣旨が合致した」（実行委）という。

守屋さんは「北海道は、出身地を問わず互いに受け入れて発展した土地。道産子の心を世界に発信したい」と燃えている。同チームは渡航費などの募金活動をしている。問い合わせは守屋さん☎080・5596・9558へ。

6月に函館で公演した守屋さん（右から2人目）ら斬桐舞のメンバー